

この貧しいやもめは、だれよりもたくさん入れた

マルコによる福音 12:38-44

（そのとき、）イエスは教えの中でこう言われた。「律法学者に気をつけなさい。彼らは、長い衣をまとって歩き回ることや、広場で挨拶されること、会堂では上席、宴会では上座に座ることを望み、また、やもめの家を食い物にし、見せかけの長い祈りをする。このような者たちは、人一倍厳しい裁きを受けることになる。」

イエスは賽銭箱の向かいに座って、群衆がそれに金を入れる様子を見ておられた。大勢の金持ちがたくさん入れていた。ところが、一人の貧しいやもめが来て、レプトン銅貨二枚、すなわち一クアドランスを入れた。イエスは、弟子たちを呼び寄せて言われた。「はっきり言っておく。この貧しいやもめは、賽銭箱に入れている人の中で、だれよりもたくさん入れた。皆は有り余る中から入れたが、この人は、乏しい中から自分の持っている物をすべて、生活費を全部入れたからである。」

説教

先週は祭日でしたのでマタイ福音書から福音を聴きました。今週は日課に戻ってマルコの福音を読み進めます。とはいっても今月末には待降節が始まりますのでキリスト教の暦でいえばもうすぐ一年のおしまい、日本風にいえば大晦日が近づいています。

さて、いま読み上げたきょうの福音をどのように聞くか、わたしはまだ迷っているのですが「お願い」シリーズ（わたしが勝手にあだ名をつけました）のごもり、格好つけていいましたが普通にいえばおしまいという意味です、として聞いてみようとおもいます。

1. あなたの心の願いはどこにあるのですか？
2. その願いは神さまの目から見てどうだと思えますか？

きょうの福音箇所にはこのようなイエスのことばはありません。あえて、イエスがこの問いを口にしたらという仮定できょうの福音を読んでみようとおもいます。

年間をとおして今年マルコ福音書を読み通してきました。きょうの箇所はガリラヤを出発したイエスがエルサレムに到着してイスラエルの指導者たちとの対決（11:27-12:44）をおこなっている部分のおしまいにあたります。

<律法学者たちに気をつけなさい>

学者たちに気をつけろ、これに続くイエスのみことばは厳しい批判となっています。

- 1) 彼らはカッコウつけて歩き回る。
- 2) 挨拶をするではなく、されることを好む。
- 3) いちばん偉い席、上席でないと機嫌が悪くなる。
- 4) やもめ（弱い立場の者）を食いものにする。
- 5) 見せかけの祈り、それも長ったらしい祈りをする。

イエスは偉い人たちに向かってこんなスカツとする啖呵（たんか）をきっています。この説教をきいた人たちはさぞかし拍手喝采したことでしょう。私も生で聞きたい。

<やもめの献金>

イエスはさいせん箱を正面にして座り、みんながさいせんを入れる様子をじっと見えています。おおくの金持ちがたくさん入れていました。一人の貧しいやもめは100円いれました。続く福音でこのやもめをイエスは褒めちぎるようすが証言されています。

けっこうイエスも嫌味なことをするなあと思うのはわたしだけでしょうか。献金箱の真ん前に座って誰がいくら入れるのかじっと見ている、観察しているわけです。イエスさまじゃなかったらイヤです、お前そどこけ、って話に

なります。でも、考えてみれば神さまは誰がいついくら献金したのかはお見通しです。わたしがいくらイヤだなあとおもっても関係ないというかそんなことには頓着（とんじゃく）しないのが神さまでしょう。

じゃあ、神はわたしたちのどこに頓着されているのか、神はわたしたちのどこを深く心にかけているのか、気にされているのでしょうか？

イエスはこう語っていました。

金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。（マルコ 10:25）

イエスは金持ちの男よりらくだのほうがまだ見込みあると語っていました。また、イエスはバルティマイという盲人の物乞いの願いを聞き入れ、貧しい男の目を開きました。飛躍があるのは十も承知の上で、みなさんにそしてわたし自身に二つの問いかけます。

- ・貧しければ貧しいほどより神さまの愛に近く居る。これは真実か？
- ・わたしの心の願い、ほんとうの願いはどこにあるのか、またその願いは神の目にはどう見えているのか？

イエスの小さいテレーズ（注1）はこう言いました。「恐れることはありません。貧しければ貧しいほど、イエスはあなたを愛されるでしょう。」

注1:

リジューのテレーズ（1873年1月2日-1897年9月30日）は、19世紀フランスのカルメル会修道女。本名はマリー・フランソワーズ・テレーズ・マルタン。修道名は「幼きイエスのテレーズ」。カトリック教会の聖人にして33人の教会博士の一人。（ウィキペディアより引用）
